

みどりの学び 蔵王樹氷再生プロジェクトに参加しました。

山形新聞、山形放送8大事業である「みどりの学び 蔵王樹氷再生プロジェクト」が開催されました。7月26日に夏の教室、9月27日に秋の教室が行われ、それぞれ山形県在住の小学生とその家族10組が集まりました。

この取組は、蔵王山の樹氷を親子で学び、樹氷のもととなるオオシラビソが広範囲で枯死している現状を知り、未来へのアクションにつなげることを目的に、山形新聞・山形放送が毎年開催しており、山形森林管理署も毎年協力しています。

午前中は蔵王ロープウェイに乗車し、ユートピアゲレンデにてオオシラビソについて学習しました。その後、被害地に移植するオオシラビソの稚樹探しと採取を行いました。昼食では芋煮も提供され、団らんを楽しみました。午後からは地蔵山頂駅周辺にてオオシラビソ稚樹の試験移植体験を行いました。夏の教室ではいろは沼の散策、秋の教室では地蔵尊の参拝や三宝荒神山のトレッキングも行い、蔵王を楽しみながら自然の大切さや樹氷の現状について学びました。

オオシラビソの稚樹は笹藪の中に生えており、探すのに苦労していました。スコップを使って稚樹の周囲の土ごと掘り出しますが、植物の根っこが断ち切れず、親子や参加者で協力している姿も見られました。移植時も根や岩に邪魔され、植穴を掘るのに苦労しておりましたが、無事移植できた時は達成感のある顔をしており記念撮影をしている親子も多数いました。

将来オオシラビソ林が再生し、景観を将来に残せるよう今後も取り組みを続けてまいります。

